最後の別れ、欠かせぬ「納体袋」　コロナ感染者の遺体収容、業者納入ー札幌

２０２１年０７月０４日０７時０９分

川尻工業が製造する非透過性の納体袋=6月18日、札幌市中央区

新型コロナウイルスに感染して亡くなった人を収容する「納体袋」を、医療用具などの販売を手掛ける「川尻工業」（札幌市）が全国の自治体に届けている。最期の別れを告げる際の二次感染防止に欠かせず、同社の川尻祥明社長は「安定供給することだけを考える」と話している。

窓越しに最後の面会　「死を無駄にしないで」ー新型肺炎で感染者遺族

同社の納体袋は透明なビニール製で、ウイルスが漏れ出ないようチャックで密閉する非透過性の構造。厚生労働省は遺体の搬送などに際し、こうした納体袋の使用を推奨している。

同社は従来、警察や大学などに非透過性の納体袋を年間50枚ほど納めていたが、新型コロナの影響で注文が増えた。全国的に感染が拡大した4月には、1日に280件ほどの問い合わせを受ける日もあったという。